

第9回

淡海の川づくりフォーラム

プログラム & 選考用資料



日時 : 平成 28 年(2016 年)2 月 13 日(土) 9:30 ~ 16:30 (受付 9:10 より)

場所 : コラボしが 21 3 階各会議室

主催 : 淡海の川づくりフォーラム実行委員会 / 滋賀県

後援 : 大津市、滋賀県河港・砂防協会、マザーレイクフォーラム運営委員会

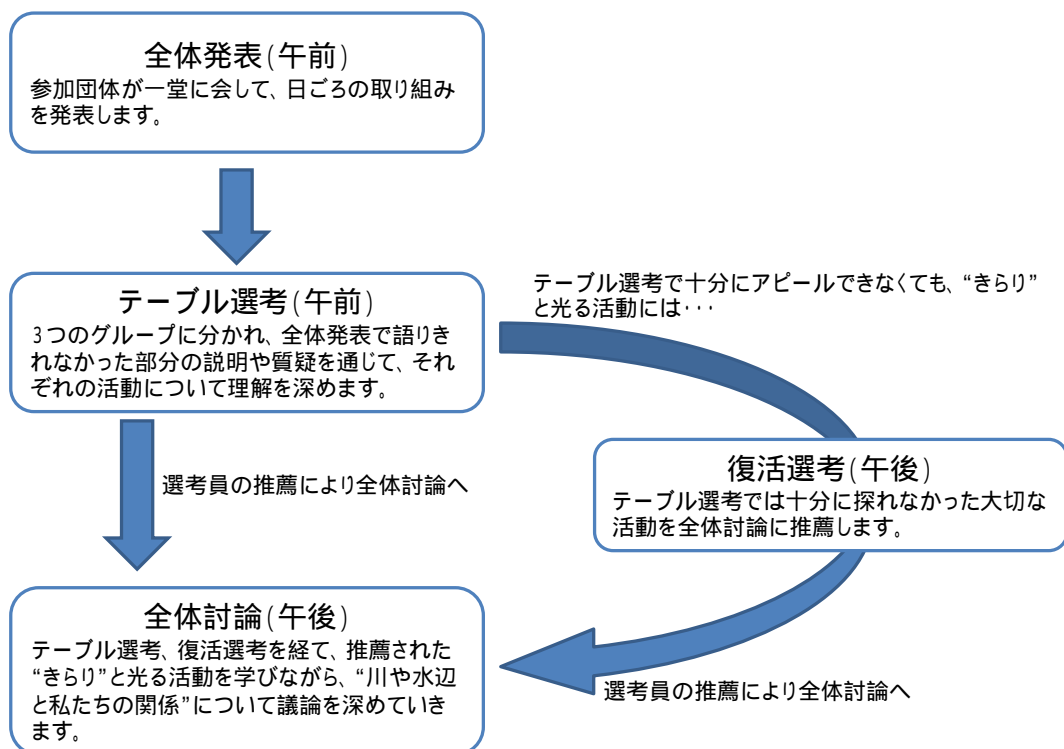
内容

1 . 淡海の川づくりフォーラムの概要	1
2 . 大会プログラム	2
3 . 公開選考会の進め方・選考基準、表彰について	3
(1) 「公開選考会」の意味	3
(2) 公開選考会の進め方について	3
(3) 選考基準	4
(4) 表彰	5
4 . 参加団体一覧・テーブル	6
5 . テーブル別各団体活動位置図	7
6 . テーブル選考 選考員プロフィール（五十音順）	9
テーブルA	9
テーブルB	10
テーブルC	11
7 . 全体討論 選考員プロフィール（五十音順）	12
8 . 総合コーディネーター・コメンテーター&実行委員会	13
9 . 参加団体活動概要	14
A-1 NPO 法人 国際ボランティア学生協会 (IVUSA)	14
A-2 TANAKAMI こども環境クラブ	15
A-3 高島市役所 政策部 総合防災局	16
A-4 日本河川・流域再生ネットワーク	17
B-1 白鳥川の景観を良くする会	18
B-2 一般社団法人 ClearWaterProject	19
B-3 滋賀県立 甲南高等学校 総合学科	20
B-4 一般社団法人比良里山クラブ	21
C-1 NPO 法人瀬田川リバプレン隊	22
C-2 しずおか川自慢大賞実行委員会	23
C-3 立命館守山中学校サイテック部	24
C-4 米原市ピワマス倶楽部	25
10 . 日本一のびわ湖を守るご当地キャラ三人衆（五十音順）	26
MEMO 欄	26

1. 淡海の川づくりフォーラムの概要

淡海の川づくりフォーラムでは、“川や水辺と共生する暮らし”、“川や水辺と私たちのいい関係”について、川や水辺にまつわる活動を実践されている皆さんとともに、公開選考方式のワークショップを通じて、それぞれの交流の中で議論を深め、探ります。

- 日時：平成28年(2016年)2月13日(土) 9:30～16:30 (受付9:10より)
- 場所：コラボしが21 3階各会議室
- 主催：淡海の川づくりフォーラム実行委員会 / 滋賀県
- 後援：滋賀県河港・砂防協会、マザーレイクフォーラム運営委員会




淡海の川づくりフォーラムは、マザーレイク21計画に基づくマザーレイクフォーラムとの連携事業です。



淡海の川づくりフォーラムは、滋賀県流域治水条例第34条に基づく県民相互の連携の支援事業です。



2. 大会プログラム

時間	内容
9:10 9:30	受付 選考委員・事務局ミーティング（進め方、選考方法等）
9:30 9:50	開会、ガイダンス 大会議室で開会宣言を行い、その後1日の流れを説明します。
9:50 10:55	スペシャルセッション 『いい川・いい川づくりワークショップ in 仙台 グランプリ受賞までの4年間の軌跡&グランプリへの道』（守山市勝部自治会） 全体発表 全体会場で活動を発表します。（発表時間各3分） PR発表 選考とは別にいくつかの団体から活動PRがあります。（発表時間各1分）
10:55 11:55	テーブル選考 1)3つのテーブルに分かれます。 2)発表者と選考員とで議論を深め、全体討論に推薦する“いち押し”の活動を選考します。（テーブルごとに2団体） 3)ここで推薦が得られなかった団体は復活選考に進みます。
11:55 12:10	テーブル選考結果発表 大会議室で各テーブルから推薦された団体（計6団体）を発表します。
12:10 12:55	お昼休憩 
12:55 13:25	復活選考 1)時間内で自由に選考員に活動内容をアピールしてください。 2)復活選考から全体討論に進むのは2団体です。
13:25 16:15	全体討論 1)3分間で活動内容を発表、7分間の質疑 2)選考員・コメンテーターを中心に、明日からの活動の参考になるような、今年いちばん“キラリと光る活動”について、参加者全員でさらに議論を深めていきます。
16:15 16:30	各賞の発表・表彰式 1)「グランプリ」・「準グランプリ」の表彰 2)「山紫水明賞」、「マザーレイクフォーラム賞」の表彰

3. 公開選考会の進め方・選考基準、表彰について

(1) 「公開選考会」の意味

- 淡海の川づくりフォーラムは、公開選考会という仕組みを使って、“川や水辺と共生する暮らし”、“川や水辺と私たちのいい関係”について考えることが目的です・・・受賞団体の選考は、手段であって目的ではありません。
- お互いの発表を聞き、選考員や参加の皆さんそれぞれの視点を通して、活動の「よいとこさがし」をしてください。
- 14 ページから、今回参加の皆さまの活動概要を掲載しています。ページの下側に、「よいとこ探しキーワード メモ」の欄を設けています。ぜひ、「よいとこキーワード」をメモして、議論に参加してください。
- 質疑応答や討論時間を使って行われる「よいとこさがし」は、“川や水辺と私たちのいい関係”について考えを深める時間です。



よいとこ探しキーワード メモ！

(2) 公開選考会の進め方について

- 選考会は、全体発表 テーブル選考 復活選考 全体選考(公開討論会) 表彰の順番で進めていきます。
- 全体発表は、参加団体が一堂に会して、日ごろの取り組みを発表します。全体発表は1団体3分とし、質疑は行いません。
- テーブル選考は3グループ、1テーブル4団体に分かれ、全体発表で語りきれなかった部分の説明や質疑を通じて、それぞれの活動について理解を深めます。発表者と選考員とで議論を深め、全体討論に推薦する“いち押し”の活動を選考します。(テーブルごとに2団体)

テーブル	テーブル選考会場
テーブルA	中会議室
テーブルB	ミーティングルーム
テーブルC	大会議室

- テーブル選考で推薦が得られなかった団体は復活選考に進みます。復活選考では、選考員が大会議室に掲示された各団体のパネルを見て回りますので、時間内で自由に選考員に活動内容をアピールしてください。復活選考から全体討論に進むのは2団体です。

- 全体選考に進んだ団体は、再度、大会議室で発表をしていただきます。3分間で活動内容を発表した後、7分間の質疑の時間を設けます。
- 選考員・コメンテーターを中心に、明日からの活動の参考になるような、今年いちばん“キラリと光る活動”について、参加者全員でさらに議論を深めていきます。
- 選考員は、自らも発表者から情報を得たり、学んだりする姿勢を持ちながら参加者と一緒に“川や水辺と私たちの共生”、“川や水辺と私たちのいい関係”とは何かを探求する立場にあります。議論や選考は、後戻りや批判をすることなく、創造的に深めていくことを心がけてください。

(3) 選考基準

- 伝統的な文化と新しい文化が出会い融合する湖国滋賀にふさわしい“川や水辺と私たちの共生”、“川や水辺と私たちとのいい関係”を探ります。
- 内容の長所を評価する加点方式とし、短所は減点の対象としません。
- 公開選考会は、以下の4つのポイントにおいて総合評価します。

- 1) 発想・着眼評価：“川や水辺と私たちのいい関係”をめざすための斬新な発想や着眼、的確な視点についての評価
 例えば...
 - ・この発想はなかった！
 - ・やれるところからやりはじめているのが、イイね！ など
- 2) 関わり評価：地域住民と水辺との豊かで良好な関わり合いについての評価
 例えば...
 - ・水辺が地域を元気にするね！
 - ・継続は力だ！ など
- 3) プロセス評価：市民・住民参加や、さまざまな分野の人たちとの協働のプロセスについての評価
 例えば...
 - ・え、そんな人たちも参加しているんだ！
 - ・その連携は面白い！ など
- 4) 計画・技術評価：“川や水辺と私たちの共生”のために工夫された計画手法や採用技術についての評価
 例えば...
 - ・そんなことが出来るんだ！
 - ・すこしの工夫でずいぶん違うね～！ など



(4) 表彰

【グランプリ・準グランプリ】

- 上記の選考基準により、審査する時点の流域・地域の情勢も踏まえ、“水辺と私たちの共生”、“水辺と私たちのいい関係”のモデルとなる活動を選考します。
- 上記の選考基準により、仲間たちに希望を与える活動を選考します。

【山紫水明賞（河港・砂防協会賞）】

- 上記の選考基準とは別の視点から、今後の淡海のいい川づくり・いい湖づくりの(事業)推進に向けて貢献する活動を選考します。
- テーブル選考で推薦されなかった団体も含めて、すべての参加団体が受賞の候補となります。

【マザーレイクフォーラム賞】

- 上記の選考基準とは別の視点から、マザーレイク 21 計画の目標達成に向けて貢献する活動を選考します。
- テーブル選考で推薦されなかった団体も含めて、すべての参加団体が受賞の候補となります。

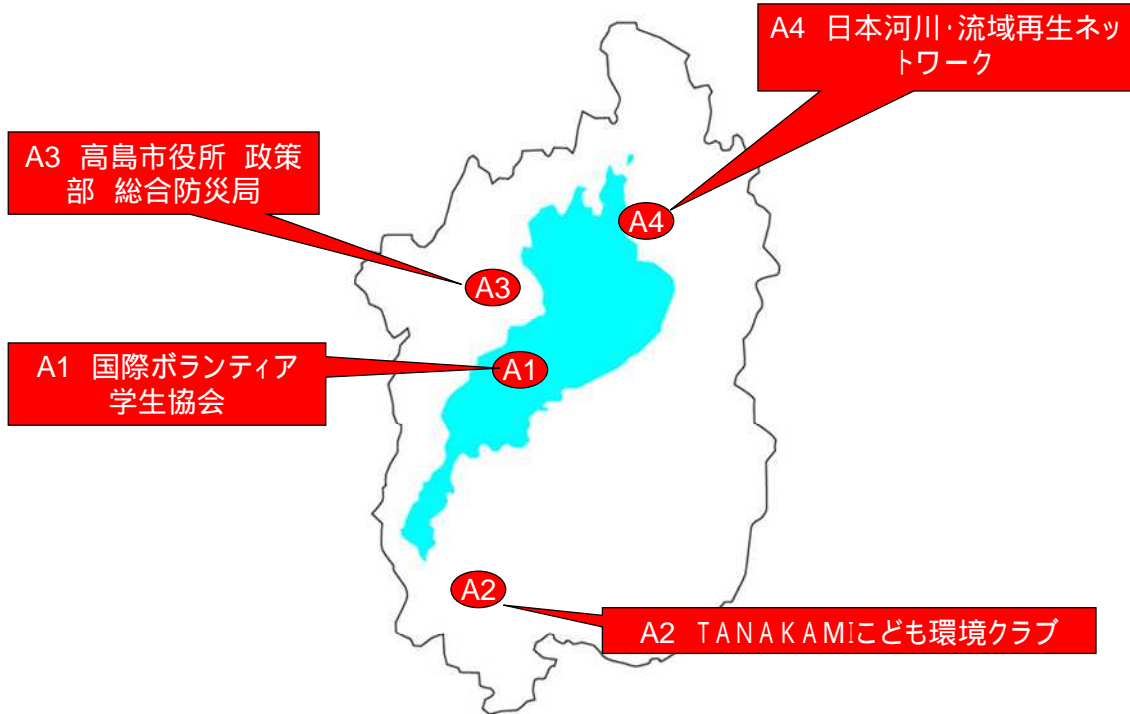


4. 参加団体一覧・テーブル

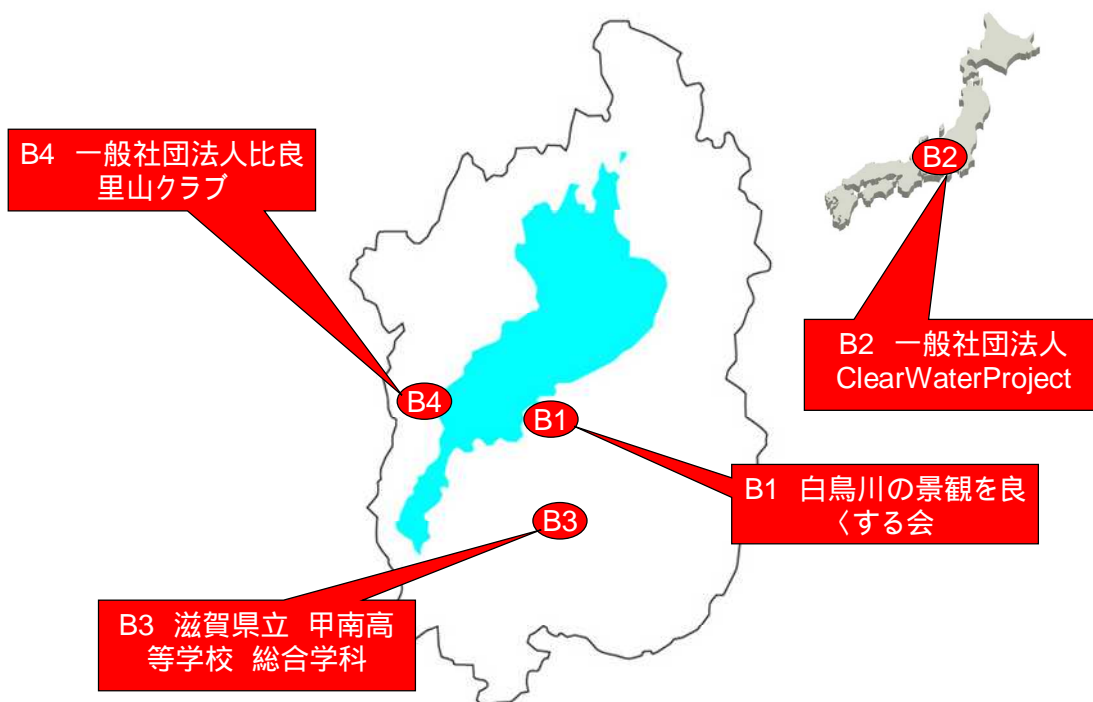
- 全体発表はA - 1 から順番に行います。

	グループ名	湖沼・河川・活動地域等	活動内容
テーブルA	A-1 NPO 法人国際ボランティア学生協会 (IVUSA)	琵琶湖南湖全域、瀬田川、東近江市伊庭内湖、高島市新旭町流入水路、米原市蓮池	外来水草オオバナミズキンバイの除去活動と広報活動
	A-2 TANAKAMI こども環境クラブ	天神川 (大津市)	自然体験活動、生き物調査
	A-3 高島市役所 政策部 総合防災局	高島市内の河川全域	防災リーダー研修会、防災出前講座、防災訓練等
	A-4 日本河川・流域再生ネットワーク	全国の川および淀川水系高時川	水辺の小さな自然再生の人材育成
テーブルB	B-1 白鳥川の景観を良くする会	白鳥川、藤間川(近江八幡市)	白鳥川流域の環境整備活動
	B-2 一般社団法人 ClearWaterProject	全国の流域	流域活動団体の中間支援
	B-3 滋賀県立 甲南高等学校 総合学科	田村川、杣川 (甲賀市)	学校の近くの杣川で環境調査を行うだけでなく、山林を守る体験的学習を続けています。
	B-4 一般社団法人比良里山クラブ	内湖、北浜、八屋戸浜など(大津市)	川や浜、内湖などでフィールドワークを行い、発見や気づきを促す授業を6年間実施しています。
テーブルC	C-1 NPO 法人瀬田川リバプレン隊	瀬田川、高橋川 (大津市)	高橋川および瀬田川バイパス高架下周辺の維持管理活動
	C-2 しずおか川自慢大賞実行委員会	静岡県内の川や水辺	活動団体や地域のつながりづくり
	C-3 立命館守山中学校サイテック部	野洲川河口および中流圏域 (守山市)	ヨシ帯調査及び水生生物水質調査
	C-4 米原市ビワマス倶楽部	天野川 (米原市)	「天野川カムバックピワサーモン」を合言葉にした取組
	計	12 団体	

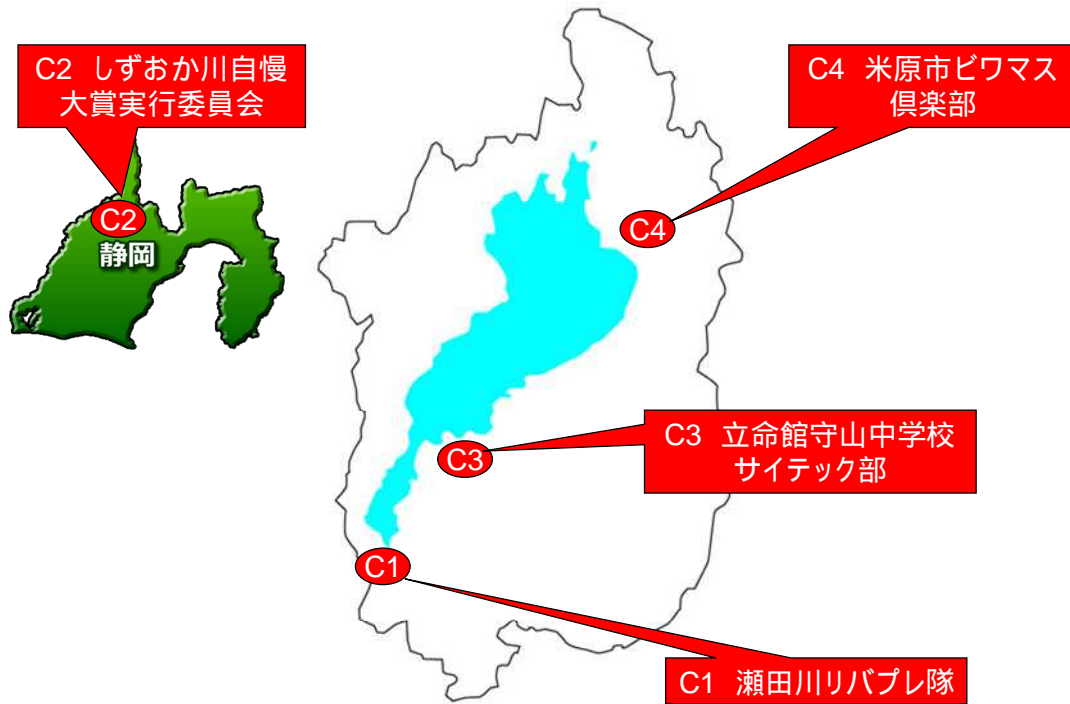
テーブル A



テーブル B



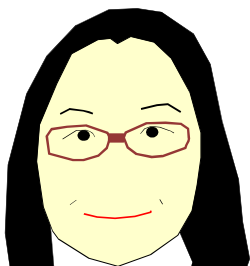
テーブル C



6. テーブル選考 選考員プロフィール（五十音順）

テーブルA

（テーブル・コーディネーター）



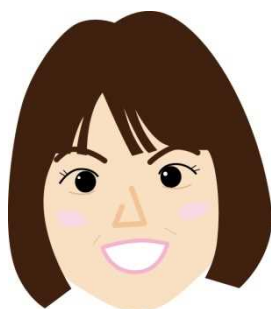
（選考員）

さとうひさ系 / NPO 法人 アート・プランまぜまぜ理事長

静岡県浜松市生まれ。京都芸術短期大学卒業後、2002年アートと市民をつなぐNPO「アート・プランまぜまぜ」を設立。現理事長。

2005年からは桂川流域ネットワークとともに桂川の流域連携を目的にした「天若湖アートプロジェクト/あかりがつなく記憶」を毎年開催。日吉ダムに沈んだ村のあかりをダム湖に灯す巨大アートは地域の風物詩として定着しつつある。

これからも、アートの力で地域を再発見する試みに挑戦していきたいと思っています。



正阿彌 崇子（しょうあみ たかこ） / NPO 法人とよなか市民環境会議
アジェンダ 21 事務局次長

兵庫県在住。環境学習やESD（持続可能な開発のための教育）といった、多様な人たちがみんなで成長できる場を作るため、近畿や海外などで活動している。2012年度に、琵琶湖博物館環境学習センターで勤務し、滋賀大好き人間。現在の環境や社会の有り様に危機感を抱きながら、日々、たくさんの人と共に仕事や活動に邁進している。



藤田 知丈（ふじた ともたけ） / 暮らシフト研究所（MLF）

島根県八雲村、ホタルやカワセミが飛び交う意宇川沿い（中海の源流域）の家で川ガキ・山ガキとして育つ。大学時代にびわ湖と出会い、そのまま滋賀に定住。建設コンサル、指定管理、NPO等の仕事を経て独立し、姉川源流の古民家に移住して「暮らシフト研究所」を設立。得意分野は情報デザイン、地域プロデュース、映像製作など。

マザーレイクフォーラム運営委員、米原市環境フォーラム実行委員、東草野まちづくり懇話会事務局、NPO 法人碧いびわ湖理事ほか。



野崎 信宏（のざき のぶひろ） / 流域政策局副局長

1961年滋賀県大津市生まれ。84年土木技術職として滋賀県に入庁。

以前は都市計画行政に携わることが多かったが、98年以降は河川行政を中心に担当。若い頃は、カヌーで各地の川に親しんでいたが、最近は半分仕事、半分遊びで川歩き、山歩き。2010年には大津市内の一級河川をほぼ踏破。

テーブルB

(テーブル・コーディネーター)



(選考員)

南 隆雄 (みなみ たかお) / NPO法人近畿水の塾 理事

1964年大阪市生まれ。1987年に衛生工学職として大阪府に入庁後、水質保全、化学物質対策、温暖化対策など主に環境行政を担当。2011年から2年間滋賀県(琵琶湖環境部温暖化対策課)に出向し、同課が所管する関西広域連合広域環境保全局の温暖化対策を担当。

水質保全を担当している時の縁でNPOに参加、また、気ままなボランティアとして、大阪府貝塚市にある自然遊学館の“トンボの池”など自然生態園の管理を手伝ったりしています。



豊田 知八(とよた ともや) / 保津川遊船企業組合 代表理事

昭和41年京都市生まれ。保津川遊船企業組合 代表理事、NPO法人プロジェクト保津川 副代表、京都大学東南アジア研究所・連携研究員。

保津川の漂着ごみの現状を憂い、船士たちで自主的な回収活動を開始した。その後、NPO法人プロジェクト保津川を設立し、地域市民の皆様や企業団体、行政間のネットワーク化により保津川の環境保全と文化価値向上を目指し活動中。



中野 隆弘 (なかの たかひろ) / びわ湖エコアイデア倶楽部 (MLF)

滋賀県大津市生まれ。小さな頃から川や山に行くのが大好きでボーイスカウトで今も活動する。2008年に勤務先有志が立ち上げた市民団体“びわ湖エコアイデア倶楽部”に、こどもエコクラブのサポーターとして参加、翌年から事務局兼サポーターとして体験活動の企画・運営や地域の子どもたちとワークショップのファシリテーターにも挑戦。自然体験を通して出会う、子どもたちの“つぶやき”に学ばせてもらっています。



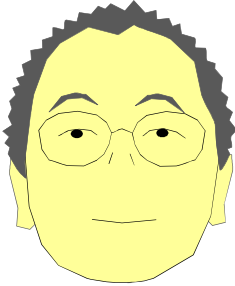
竜王 真紀 (りゅうおう まき) / 山内エコクラブ・いきものみっけ寺子屋

滋賀県甲賀市生まれ。行政保健師歴27年を超える。専門は介護予防、認知症予防、地域包括ケア。平成21年の全国いい川・いい川づくりワークショップに保護者として参加し、カルチャーショックを受けたことをきっかけに、市民活動に身を染めた県内でも珍しい異色保健師。

淡海の川づくりフォーラムでは、参加者の方の活動から毎年元気を頂くことが楽しみとなる。農地、川、山等の自然の中で人はつながり、支え合い、役割を持ち、輝き、エンパワメントされる、美しい水、安全な水や環境を作る、そのような活動が地域にあることを学ぶことこそ公衆衛生看護であると言い訳しながら、細々かつ大胆に活動をしている。

テーブルC

(テーブル・コーディネーター)



(選考員)

山道 省三(やまみち しょうぞう) / NPO 法人全国水環境交流会 代表理事

1949年11月、長崎県長与町生まれ。子どもの頃、川や魚と慣れ親しむ。
NPO 法人多摩川センター、NPO 法人全国水環境交流会の立ち上げから関わり、現在は両団体の代表理事を兼任。社会参加、NPO の運営等、仕組みづくりに興味を持つ。一昨年から“いい川”づくり研修会で全国巡業中。「川の日」ワークショップ~いい川・いい川づくりワークショップ(1998年~)事務局長、多自然川づくり研究会。



植田 潤(うえだ じゅん) / 日本野鳥の会滋賀支部保護研究部長

京都市生まれ、現在、湖北野鳥センター / 琵琶湖水鳥・湿地センターで勤務(2008年~)の傍ら、日本野鳥の会滋賀支部保護研究部長として、湖北の野鳥に関わる琵琶湖や湿地を場として、地域の子供たちとの一緒に観察会を行ったり、標識調査によって得られる情報から湿地環境の意義を明らかにして湿地保全につながっている研究など活動をしています。



高田 拓朗(たかだ たくろう) / 水と文化研究会

三重県(伊賀)生まれ。琵琶湖に魅せられて、「琵琶湖のそばで暮らしたい」と、これまでに高島市(新旭・高島)大津市(坂本)草津市と移り住み、そろそろどこかに落ち着く予定。

学生時代から県内各地で水と人びとのかかわりを学ぶ。自身のテーマは、地域の元気を、子どもたちがつないでいく手立て作り。そのため様々な活動に参加させてもらいながら模索中・・・週末はカヤックに乗って琵琶湖からぼーと山や里を見ていたい。



辻博子(つじ ひろこ) / (一社)滋賀グリーン購入ネットワーク(滋賀 GPN) 事務局長 (MLF)

新潟県生まれ。滋賀 GPN の活動を通して、環境に配慮した消費行動『グリーン購入』を事業者や市民に広げています。グリーン購入には「環境に配慮した商品・サービスを買う」だけでなく「環境保全に熱心な事業者から買う」という意味もあるので、企業の皆さんの環境の取り組みを進めるにはどうすれば良いか、日々考えています。

また、東日本大震災被災地との絆づくりの「近江ひまわりプロジェクト」や「地域エネルギー研究会」としても活動しています。

7. 全体討論 選考員プロフィール（五十音順）



田中 秀子（たなか ひでこ） / 筑後川水問題研究会

福岡県生まれ、原田正純先生（水俣病）との出会いや広松伝さん達との筑水研活動（1978年～）、から不条理には楯突きつつ、命にとって本当に大切なものを学ぶ。

莫大な予算をつぎ込みながらも増大する災害に対し、干満差6mの有明海・佐賀平野の伝統的治水技術（減災の知恵）で上手にあきらめる（溢れさせる）流域治水を発信中。



朴 恵淑（ぱく けいしゅく） /

三重大学人文学部・地域イノベーション学研究科教授

三重大学地域ECOシステム研究センター長

1954年韓国ソウル生まれ。日韓の架け橋として、大気汚染や地球温暖化、水環境保全、環境教育に関わっています。3・11の東日本大震災により、環境の大切さに気づき、絆の素晴らしさに気づき、未来に希望をつなぐことに皆、必死で取り組んでいます。

「淡海の川づくりフォーラム」が、青いゴールドと呼ばれる水資源や水環境の大切さに気づき、日本を動かす大きなムーブメントとなれるよう、頑張ります。



村上 悟（むらかみ さとる） / NPO 法人碧いびわ湖代表理事

滋賀県余呉町（現長浜市）生まれ。2009年（平成21年）より特定非営利活動法人碧いびわ湖代表理事。

水環境、ダムと過疎、地球温暖化と原発などの問題に取り組んできた経験に基づき、持続可能で災害にも強い自立循環の暮らしづくり、住まいづくり、地域づくりに取り組んでいる。その一環として雨水貯留の普及と技術開発に力を注いでいる。



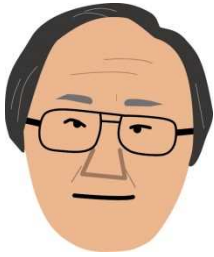
安居 長敏（やすい ながとし） / 滋賀学園中学・高等学校 校長

滋賀県彦根市生まれ。愛知川と琵琶湖を遊び場に育つ。20年間の教員生活後、2つのコミュニティFM開局・運営に携わる。PCサポート業を兼務しながら、4年間フリーランス。その後、再び教員に戻り、現在に至る。

水辺との深い関わりは、琵琶湖河川レンジャーとして活動し始めた2012年1月から。仕事の関係で現在はレンジャーを外れたが、生活と水環境について幅広く模索中。

8 . 総合コーディネーター・コメンテーター&実行委員会

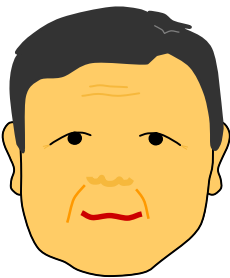
(総合コーディネーター)



中谷 恵剛 (なかたに けいごう) / NPO法人瀬田川リバプレ隊

瀬田の生まれ。川が好き。味噌汁といえばシジミ、モロコの素焼き + 酢味噌またはショウガ醤油、ギギの蒲焼き、鮎の塩焼き、フナズシなどなど食いしん坊なことも、水辺の環境を守る第1歩かなんてことを思いつつ、水を知るには上流からと言うことで源流付近(源流までは体力的に厳しい)の探訪などをしております。

(コメンテーター)



片寄 俊秀 (かたよせ としひで) / まちづくり道場 道場主

水辺と下町を同時に再生することこそが、人類の明日に<ほのかな希望>をもたらすと信じ行動する「川じじ」。いい川・いい川づくりワークショップ運営委員。まちづくり道場を主宰するが門人ゼロ。技術士・工学博士・一級建築士。著書『ブワナトシの歌』『スケッチ全国町並み見学』『千里ニュータウンの研究』『まちづくり道場へようこそ』『いい川・いい川づくり最前線(共著)』『いいまちづくりが防災の基本』『日本の石橋・世界の石橋スケッチ集』『まちを歩く・まちを描く』など。食のまちづくり研究の傍らアコーディオン教室に入門し初歩練習中。

(実行委員会)



北井 香 (きたい かおり) / NPO 法人木野環境 理事

奈良県山辺郡山添村生まれ。興味があるのは田んぼ、農村の文化、そこで生きる人、日々重ねられた生活。子ども流域文化研究所での過去の水害聞き取り調査に従事し、現在はNPO 法人木野環境 理事。

滋賀の農山村の情報発信・地域づくりの業務に関わり、県内各地へ赴く。地域の良さを前向きに活かして、活動・発信・取組んでいる人たちを盛り立て、応援したい。現職は滋賀県立大学 特定プロジェクト研究員。2009年に流域治水検討委員会(住民会議)を母体とした淡海の川づくりフォーラム実行委員会を立ち上げ、現在、実行委員長。

(流域治水検討委員会(住民会議) 実行委員会)



大橋さん



杉本さん



松尾さん



中井さん



柴田さん



石津さん



黒黒さん



成宮さん



中村さん



多々納さん

9 . 参加団体活動概要

A-1 NPO 法人 国際ボランティア学生協会(IVUSA)

活動のキーワード

日本全国の学生が挑む 特定外来生物オオバナミズキンバイ 多様な主体との協働(行政、地域 NPO、漁師、企業、住民など)

発表内容

琵琶湖では外来水草オオバナミズキンバイが急激に繁茂し、魚の産卵場所が減るなど生態系に悪影響を与え、船も通れなくなる問題もあり漁業関係者も悩まされています。

IVUSA は 2013 年より活動を開始し、これまで守山市を中心に計 25 回、延べ 4461 人での除去活動を行いました。

去年 9 月、3 日間にかけて日本全国約 400 人の大学生が滋賀県に集まり、琵琶湖南湖全域での大規模除去活動を行い、1065 ヶ所、4300 m²、42 トンの外来水草を除去しました。

今年度には北湖でも確認され、多様な主体とともに早期の除去に努めました。

また、広報活動にも力を入れ、イナズマロックフェス、ラジオ出演の他、韓国で開催された世界水フォーラムでは滋賀県での取り組みを世界に発信しました。

今回、オオバナミズキンバイ撲滅に向けての多様な主体との協働での取り組みについて発表させていただきます。

活動中の川や水辺の名称

琵琶湖南湖全域、瀬田川、東近江市伊庭内湖、高島市新旭町流入水路、米原市蓮池

活動内容

外来水草オオバナミズキンバイの除去活動と広報活動



よいとこ探しキーワード メモ！

A-2 TANAKAMI こども環境クラブ

活動のキーワード

自然体験活動 キャンプ場 生き物

発表内容

大津市田上地域にある大津市田上市民運動広場内に田上教育キャンプ場がある。後ろに田上山(太神山、八ヶ岳、笹間が岳)がそびえ、その山々から流れる天神川がサイドに流れている。キャンプ場は、かつて公立小中学校を中心にキャンプを目的として利用されてきた。管理棟であった建物があり、平成21年度より建物の使用が可能となっている。このキャンプ場を利用して、近隣及び大津市など多くの人びとに利用してもらいながら、自然体験活を行うことで田上の自然を知ってもらおうということを目的に植物などを育てて、染め物をしたり、川や川岸の生き物探しをしたり、デイキャンプとして、火をおこしたり、食べ物を作ることを中心に活動をした。

活動中の川や水辺の名称

天神川

活動内容

自然体験活動、生き物調査



よいとこ探しキーワード メモ！

活動のキーワード

防災フォーラム・防災リーダー研修会の開催 高島市総合防災マップの作成 区・自治会等への出前講座の開催

発表内容

高島市では、市民の皆様が防災を生活の一部として考え、防災意識向上、そして命を守る行動を考える目的で、様々な取り組みを行っています。

防災リーダー研修会や防災出前講座を通じ、市民の皆様にも必ず伝えていることがあります。それは、高島市には山・川・里があり、日々それらの恩恵を受けながら生活している中で、身近に自然があるということは、自然災害にも近い生活をしているということを改めて自覚していただきたいということです。過去の災害を知り、その地域の自然特性を知ることによって、自然とよりよい距離感を保ち、共存方法について考えていただきたいということです。

今後も、市民の皆様と共に、よりよい防災について考えていきたいと思えます。

活動中の川や水辺の名称

高島市内の河川全域

活動内容

防災リーダー研修会、防災出前講座、防災訓練等



よいとこ探しキーワード メモ！

A-4 日本河川・流域再生ネットワーク

活動のキーワード

小さな自然再生 地域づくり 人材育成

発表内容

子どもからお年寄りまで誰もが気軽に参加し、小規模で速やかにかつ低コストで、時には失敗をしながらも活動の効果が短期間で目に見える、そんな地域による取組みが「小さな自然再生」として注目されています。

私たちは水辺でできる「小さな自然再生」を全国に普及すべく、有志の研究者や実務者とともに「水辺の小さな自然再生事例集」を制作し、この事例集を活用した現地研修会を開催しながら、小さな自然再生に取り組む仲間を増やし、技術の向上に取り組んでいます。

昨年 11 月に滋賀県の力強い協力を得て開催した高時川現地研修会の紹介を通じて、水辺の小さな自然再生の素晴らしさをお伝えしたいと思います。

活動中の川や水辺の名称

全国の川 及び 淀川水系高時川

活動内容

水辺の小さな自然再生の人材育成



よいとこ探しキーワード メモ！

B-1 白鳥川の景観を良くする会

活動のキーワード

継続は力 除草作業の助っ人 生物多様性と好循環社会への足掛かり

発表内容

私たちの活動は今月おかげさまで10周年を迎えることが出来ました。先輩諸氏やメンバーの努力で、大きな事故もなく全員元気で10年間活動を続けて来られました。その結果、ジョッキングや散策など市民の憩いの場として親しまれるようになってきました。しかし、メンバーの平均年齢は年ごとに1歳ずつ増え、昨年度の平均年齢は71歳となり、堰堤斜面の除草作業は高齢者には厳しくなっており従来の刈払機による除草作業から何らかの改善が必要になってきています。一方三面張りの無い川は自然が一杯で、植物は確認されているだけで140種以上、飛来する渡り鳥も含め18種が生息し、川の魚も数多く確認されています。しかしこの中に哺乳類は確認できていません。また、除草作業の草は放置したままで、量が増えると自然に戻る前に堆積し景観を損ねることもありました。

河川敷に羊を放牧し、除草作業軽減の一助として、また草を羊の餌として食べられ糞は桜樹木の肥やしとして生物多様性豊かで循環型社会の足掛かりといたく今年度試行を始めました。

活動中の川や水辺の名称

白鳥川（JR線路横～琵琶湖河口まで約5km）、藤間川（医療センターから白鳥川合流約1km）

活動内容

白鳥川流域の環境整備活動

よいとこ探しキーワード メモ！



活動のキーワード

ファンドレイジング 団体・活動の継続性 流域思考

発表内容

私たちの提供するサービス、カワサポは全国の流域活動団体を市民や企業が支援する仕組み。意義のある取り組みや活動も持続可能性がなければ意味がない。各団体が自律的に継続し、ノウハウが継承されていく必要がある。継続の上で問題となる活動資金について、カワサポは「クラウドファンディング」という、団体による積極的なPR活動と表裏をなす手法を提供しており、団体の自立を促している。また、昨夏の鬼怒川水害にみられるように、これからは「流域思考」が極めて重要。カワサポは詳細な流域地図を装備しており、各団体、ユーザーが流域について関心を抱くきっかけを随所に施し「流域思考」の普及啓発にも取り組んでいる。

活動中の川や水辺の名称

全国の流域が対象

活動内容

流域活動団体の中間支援



よいとこ探しキーワード メモ！

活動のキーワード

杣 つながり ひろがり

発表内容

甲南高校総合学科の1年生では、産業社会と人間という教科の中で、各系列の内容や進路のことだけでなく、地域の環境と人の暮らしについて体験的に学んでいます。特に「杣を通して水を考える」と題し、学校の近くを流れる杣川と林業のつながりをもとに、河川と山林を一つのつながりとして考え、体験学習を通じて、その大切さを学んでいます。そしてその活動で感じたことなどを成果として地域にも広げていけたらと思っています。

活動中の川や水辺の名称

野洲川支流（田村川・杣川）

活動内容

学校の近くの杣川で環境調査を行うだけでなく、山林を守る体験的学習を続けています。



よいとこ探しキーワード メモ！

B-4 一般社団法人比良里山クラブ

活動のキーワード

中学1年環境学習授業 里地・里湖エリアの取組み 自然の石組みの川づくり、葦刈り、浜
欠け調査

発表内容

2011年より大津市立志賀中学校1年生の環境学習授業を委託され、大津市北部の地域において、毎年220名の生徒を受け入れています。その内容は、里山、里地、里湖に分かれ、さらに2グループにて構成。指導は、各地域で活動している団体や個人の方々と、午前中がフィールドでのグループワーク、午後は全体でのまとめ学習です。

県の教育委員会からも高い評価を頂き、近年、当校は環境リーディング校の指定校に認定されました。

これまで取り組んだ授業の中から、いくつか事例をご紹介します。

活動中の川や水辺の名称

内湖、北浜、八屋戸浜など

活動内容

川や浜、内湖などでフィールドワークを行い、発見や気づきを促す授業を6年間実施しています。



よいとこ探しキーワード メモ！

発表内容

毎月10日に瀬田川、25日には高橋川の河川清掃に今年も取り組んでまいりました。雨で中止になることも少なく天候も味方してくれていると考えています。

今年も活動はありませんが、2,3の活動を紹介させていただきます。

2年程前から日本生命とのコラボで高橋川の河川敷の序奏と植物観察会の実施報告

大石地区の活性化の取組み。淀川工事事務所が主体となってリバプレ隊も連携して大石川辺物語と題してイベントを3年程実施して参った報告

河川を中心にした活動で国交省より河川協力団体認定・河川功労者表彰・ダム建設功績者表彰を受けました。

活動中の川や水辺の名称

高橋川および瀬田川バイパス高架下周辺

活動内容

高橋川および瀬田川バイパス高架下周辺の維持管理活動



よいとこ探しキーワード メモ！

活動のキーワード

川自慢 いいね!! 交流

発表内容

しずおか川自慢大賞は、静岡県内の川や水辺を舞台に活躍する団体、個人の交流の場です。

『県内各地でさまざまな活動をしている団体や個人を知り、お互いの活動にエールを送り、たたえあい、今後の活動の励みとする』が基本姿勢です。

今年は、去る1月30日(土)に開催し、これまでの発表数は、のべ211団体となりました。

2001年(平成13年10月)に始まった川自慢では、「川を舞台に心豊かな地域づくり」を目指して、活動団体の発表や交流が少しずつ形を変えながら続けられています。毎回、「川のおもしろさ再発見、仲間の楽しさ大発見!!」がたくさんあります。

15年目の節目となった今回、ご縁があって、滋賀の地で、私達の活動を紹介させていただくこととなりました。

みなさんの「いいね!」をたくさん見つけて、「川でつながる地域(みんな)の元気」につなげていきたいと考えています。

活動中の川や水辺の名称

静岡県内の川や水辺

活動内容

活動団体や地域のつながりづくり



よいとこ探しキーワード メモ!

C-3 立命館守山中学校サイテック部

活動のキーワード

野洲川河川敷ヨシ帯調査 野洲川水生生物調査 野洲川水質調査

発表内容

今年度、立命館守山中学校サイテック部は、野洲川の豊かな生態系が維持されることを願って、琵琶湖河川事務所の方にご指導いただきながら様々な調査を行ってきました。

野洲川河口部にて行われた再生事業により生育されたヨシ帯の面積調査や中流圏域での水生生物や水質の実態調査などです。その詳細について報告します。

活動中の川や水辺の名称

野洲川

活動内容

ヨシ帯調査及び水生生物水質調査



よいとこ探しキーワード メモ！

C-4 米原市ビワマス倶楽部

活動のキーワード

知る 守る 伝える

発表内容

私たち米原市ビワマス倶楽部は、市が進める「米原市天野川ビワマス遡上プロジェクト」と連携して、天野川にビワマスが遡上する環境を取戻すための取組を行っています。

これまでに、多くの方との関わりの中で、ビワマスや天野川についての学習会、天野川への鉄製魚道の設置、ビワマス紙芝居の作成、ビワマス料理店の出店(イベント等で)を行ってきました。今年度は新たな取組として、ビワマスの遡上調査を行いました。このような私たちの活動内容について、発表したいと思います。

活動中の川や水辺の名称

一級河川 天野川(淀川水系)

活動内容

「天野川カムバックビワサーモン」を合言葉にした取組



よいとこ探しキーワード メモ！

10. 日本一のびわ湖を守るご当地キャラ三人衆（五十音順）



あゆむ / マザーレイクフォーラムイメージキャラクター

マザーレイクを旅するさすらいの鮎。のんびり屋で休憩が多い。夢は川にのぼって大きくなることだが、びわ湖で小さく育つのも悪くないと思いつている。好きなものは石に付いた藻。苦手なものは泥



げっすい~ / 琵琶湖流域下水道イメージキャラクター

流域下水道を守る謎の妖精。水をきれいにすることが好きで、琵琶湖から日本中へと旅して回っています。

泳ぐことや掃除・洗濯が得意です。苦手なものはてんぷら油。



ちっすいくん / 流域治水政策イメージキャラクター

流域治水の申し子。腰についている4つの玉は、水害から身を守るための4つのアイテムで、「ながす」・「ためる」・「そなえる」・「とどめる」と呼んでいます。

だいたいホワッと、たまにはピリッと、みんなと一緒に考えてみんなを見守る水防災の妖精。

水防災の妖精だけに、大好きなのは耐水性の気持ちに切り替わる瞬間の眩しさ。いまは扁平でも、出すとこ出して魅惑のマーメイドになるのが夢。

MEMO 欄